

2021年(令和3年)9月3日(金曜日)

♡ **子供の心を認め、受容する**

人は皆、それぞれ独自の個性や持ち味を持っています。それにもかかわらず、人の一側面だけをとり上げて他の人と比較しようとするれば、別の側面を見落として、差別を招くことにもなりかねません。

家庭内でも、子供をつい他のきよつだいと比べて叱(しか)つたり、小言を言ったりしてしまうこととはないでしょうか。しかし、親のうかつなひと言が子供の自己評価を下げたり、心に深い傷を与えたりする場合があります。

道徳で人と社会を幸せに

親はそうした言動に気をつけて、常に子供の持ち味を認め、その能力や適性が十分生かされるように心を配りたいものです。一人ひとりの子供の豊かな可能性を認め、受容していくためには、親自身が温かな「思いやりの心」を育んでいく必要があります。こうした大人の支えがあつてこそ、子供は力を伸ばし、将来に向けて力強く羽ばたいていけるのです。

「道徳」教科化 ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉366日」

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人 モラロジー 道徳教育財団 〒277-8654 柏市光が丘 2-1-1
E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155

2021年(令和3年)9月17日(金曜日)

♡ **「親竹」に心を向け続ける**

地表に出てきたばかりのタケノコは、ほんの少し曲がっていて、頭の先を親竹のほうへ向けています。しかしこれはわずかな期間だけのことで、生長するにつれてまっすぐ上に向かって伸びていきます。

これは人間にも当てはまることかもしれません。幼いころは親のほうを向いていた子供が、成長するに従って親離れしていく——それでも、親はいつも子供のことを思い続けているのではないのでしょうか。日々

道徳で人と社会を幸せに

の生活の中で、そうした親の思いに心を向けていきましょう。離れて暮らしていても、手紙や電話を通して報告・連絡・相談を心がけたり、元気に生活している姿を見せたり、兄弟姉妹が仲よく助け合ったりしていくことで、親はどれほど安心し、満足するでしょうか。同時に、私たちのいのちの根源としての祖先に対する感謝の気持ちも、大切に持ち続けたいものです。

「道徳」教科化 ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉366日」

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人 モラロジー 研究所 〒277-8654 柏市光が丘 2-1-1
E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155

2021年(令和3年)9月24日(金曜日)

♡ **恩を知り、恩に報いる**

仏教の教えに「知恩」「感恩」「報恩」という言葉があります。これは、自分自身が数限りない恩を受けているという事実を知り、それらの恩に感謝して、恩に報いることの大切さを説くものです。

自分を支えてくれる身近な人々や、自分の生活を支える社会とのつながりを認識し、一人ひとりがその一員としての務めを果たしていくことで、私たちの社会生活は保たれ、将来にわたって発展していきます。そ

道徳で人と社会を幸せに

して「先人たちの苦労や努力の上に、今がある」という点に思いを致し、「次の世代が幸せに暮らせるように」と願って、今を築いてくれた先人たちの思いを受け継いで、子孫の世代が自分たち以上に幸せな暮らしができるよう、社会の維持・発展に努めていくことは、先人の恩恵に報いる方法の一つといえるのではないのでしょうか。

「道徳」教科化 ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉366日」

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人 モラロジー 道徳教育財団 〒277-8654 柏市光が丘 2-1-1
E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155

2021年(令和3年)10月1日(金曜日)

親子の心を育て、家族の絆(きずな)を深める場は「家庭」にあります。そして、家庭の温度を高め、家族の幸せを築いていくためには、当事者である家族一人ひとりが力を合わせていくしかありません。

そのために、私たちにできることを考えてみると、「明るい挨拶を心がける」「肯定的な言葉を多く使う」「みんなで食卓を囲む機会を持つ」「朝、家族と握手をして出かける」「子供の話を耳を傾ける」「家族の長所

♡ 一人ひとりがつくる

「温かい家庭」

道徳で人と社会を幸せに

「子育て」は「子供は褒めほめる」「子供はお手伝いなどを通して、家族の一員としての役割を担う」「みんなで力を合わせて家の仕事や作業をする」……そのほかにも、まだまだたくさんあります。

一度、家族全員で話し合ってみてはいかがでしょうか。家族が集まって話し合う、そのこと自体が家庭の温度を上げることにつながっていくのです。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラル」の心を育てる言葉 366日

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人 モラルロジー 道徳教育財団 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1
E-mail: book@morology.jp TEL: 04-7173-3155

2021年(令和3年)10月8日(金曜日)

「啐啄(そったく)」という言葉があります。卵の中で、今まさに生まれ出ようとするヒナは、内側から殻(から)をつきます。そのヒナの動きを感じた親鳥が、外からも殻をついて、これを助けようとします。その内と外からつつくタイミングがうまく一致すると、殻が割れてヒナが無事に誕生するのです。それは、まさに「逃したらまたと得がたい絶好の機会」といえます。

私たちは毎日のようにさま

♡ 啐啄

道徳で人と社会を幸せに

さまざまな出会いを経験するものですが、人と人との出会いもまた、ただ相手と向かい合ったというだけでは「出会い」とはいえないのではないのでしょうか。こちら側の心に「相手を受け入れる準備」が整っているだけでなく、それが相手側のタイミングともうまく合致したときにこそ、人生を変えるほどの出会いも生まれるのです。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラル」の心を育てる言葉 366日

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人 モラルロジー 研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1
E-mail: book@morology.jp TEL: 04-7173-3155

2021年(令和3年)10月15日(金曜日)

「これで三方どちらもよい」
廣池千九郎(ひろいけちくろう)モラルロジーの創業者、法学博士、一八六六〜一九三〇が三人連れで講演先へ向かう際、事故で列車が不通になり、タクシーに乗ることにしました。そこへ先を急ぐという人が二人、同乗を頼みに来ます。当初「三人が乗って二十円」という契約をしていた廣池は、全員で五円ずつ出すことを提案し、次のように説明しました。

「私は無料で同乗させてあげても差し支えないが、運転手さんは契約と違うから、不愉快な思いを

♡ これで三方どちらもよい

道徳で人と社会を幸せに

しなければならぬ。そこであなたたちもお金を少し出せば、その分運転手さんに多く払うことができ、あなたたちも気軽に乗って行ける。私たちも窮屈な思いはするが五円だけ安くなるので、これで三方(さんぽう)どちらもよいことになるでしょう」

日常生活の中でも、何か物事を行うときには、常に自分・相手・第三者が共に喜ぶことのできる「三方よし」の視点を大切にしたいものです。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラル」の心を育てる言葉 366日

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人 モラルロジー 道徳教育財団 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1
E-mail: book@morology.jp TEL: 04-7173-3155

2021年(令和3年)11月12日(金曜日)

♡「今、こゝ」でやるべきことをやり続ける

日本初の林学博士で「日本の公園の父」と呼ばれた本多静六(ほんたせいりく、一八六六―一九五二)は「仕事は一所懸命にやっていたら必ずおもしろくなる。それが成功への道であり、幸福への道である」という確信を、生涯にわたって説き続けました。

本多は、幼いころに父親が多額の借金を残して亡くなったため、書生として他家に住み込んで勉学に励みました。その折、家の主人から紹介されたのが、学費のかからない「山林学校」でした。目

の前に偶然現れたその道で、与えられたことを一所懸命にやり続けることで、本多はみずからの人生を切り開いていったのです。(参考)渡部昇一「中山理共著『人間力を伸ばす珠玉の言葉』モラルロジー研究所」
「自分らしくいられる場所を探して堂々めぐりになるよりも、今、こゝでやるべきことをやり続けてこそ、発見や喜びが得られるのではないのでしょうか。」

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉」3.6.6日

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号
住所・氏名「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人 モラルロジー 道徳教育財団 〒277-8654 柏市光ヶ丘 2-1-1
E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155

2021年(令和3年)11月5日(金曜日)

♡大切にしたい「親孝行の心」

古くから「孝は自行(ひやくここの本)といえます。これは、自分の「いのち」を生み育ててくれた親や祖先に対して孝養を尽くすことこそ、私たちがよりよい人生を築くための基本であることを教えたものです。

私たちが人間と動物との決定的な違いは、親に感謝し、孝養を尽くすことであるといわれます。確かに、動物も親は子を手を大切に育て、子も一人前に成長するまでは、親に寄り添っています。しかし、ひとたび成長し、

道徳で人と社会を幸せに

巣立つてしまつと、そこには人間のような親と子の関係は感じられませんが、いつになつても親子の情を持ち続けるのです。ここに、人間が人間である理由があるのではないのでしょうか。

親がわが子を思う「親心」と同様に、子が親を大切に思う「親孝行の心」は、時代が変わつても大切にしていきたいものです。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉」3.6.6日

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号
住所・氏名「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人 モラルロジー 道徳教育財団 〒277-8654 柏市光ヶ丘 2-1-1
E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155

2021年(令和3年)10月22日(金曜日)

♡日本人の美しい生き方

日本人は古来、日本の美しい自然を愛してきました。そして「大いなるものに生かされている」と感じ、神仏を畏(おそ)れ敬い、自然と共生してきました。

一つの国の伝統と文化は、長い歴史を通じて受け継がれてきたものであり、不思議とその民族を象徴します。私たちの祖先がどのような自然観や死生観を持っていたか、また、どのような想像力を持ち、何を尊び、何を畏れ敬ったかを、日本の伝統と文化の中に見ることができるよう

道徳で人と社会を幸せに

「日本人の心のよりどころ」として約二千年の時を刻んできた伊勢の神宮の祭事などは、その最たるものといえるでしょう。

日本の歴史や伝統、文化を見直すことは、日本人としての精神的な支柱を確かなものにし、まず、身近な地域に伝わる伝統や文化に触れて、その奥に流れる「日本人の美しい生き方」を再発見してみたいかがでしょうか。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉」3.6.6日

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号
住所・氏名「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人 モラルロジー 道徳教育財団 〒277-8654 柏市光ヶ丘 2-1-1
E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155

2021年(令和3年)11月19日(金曜日)

2021年(令和3年)11月26日(金曜日)

♡ 地域のつながりは挨拶から

ひと昔前までは、困ったことがあれば隣人同士で助け合うなど、隣近所が「大きな家族」のようだった日本の地域社会。近年は地域のつながりが薄れ、地域の教育力の低下や犯罪の増加が指摘されるようになっていきます。

住民の地域への関心度を示すものの一つに、町内の掲示板が挙げられます。期限の切れたポスターやチラシがいつまでも貼られている地域や集合住宅は、泥棒に狙(ねら)われやすく、犯罪発生率も高いという指摘があ

るほどです。これは「住民と住民の心の間に隙間すきまが生じている」ということではないでしょうか。

隣人に対して心を開くきっかけは、やはり挨拶や声かけでしょう。「おはようございます」といった簡単な挨拶から始め、徐々に「いいお天気ですね」などのひと言を付け加えていくことで、心の通い合う人間関係を築いていきますよ。

道徳で人と社会を幸せに

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉」309頁

♡ 多くの「恩」に支えられている

私たちは、衣食住をはじめ、身の回りの人々の働き、または文字や言葉や芸術などの文化的なもののおかげで日々生活しています。また、家庭や社会、国があつて今の暮らしが成り立っているのあり、さらに、これらすべては自然のはたらきに包まれています。そもそも私たちのいのちは、数限りない祖先たちによって伝えられてきたものであり、その間に一度でも断絶していたら、私たちは今ここに存在しないのです。

このいのちは、子や孫へと次代

道徳で人と社会を幸せに

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉」309頁

に伝えられていきます。社会全体も地球そのものも、同じように次代へつないでいかなければならぬいものです。

そう考えると、私たちは「自分が恩を受けたと思わない」「昔のことなど知らない」などということができるのではないでしょうか。自分の生き方を考えるうえで、そうした多くの恩恵に支えられているという自覚を持つことが大切ではないでしょうか。

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人 モラロジー道徳教育財団 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1
E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人 モラロジー道徳教育財団 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1
E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155